

駐日ラテンアメリカ大使インタビュー

グアテマラ共和国

マヌエル・エストゥアルド・ロルダン・バリジャス駐日グアテマラ大使

マヤ文明の国グアテマラの魅力を知ってほしい

—外交関係 90 周年と万博を通じ関係を促進—



グアテマラ共和国のロルダン駐日大使は、ラテンアメリカ協会のインタビューに応じ、昨年 1 月に就任したアレバロ大統領の政策課題、米国トランプ政権との関係、日本との外交関係樹立 90 周年等について見解を表明した。同大使は、1989 年外務省入省、駐ブラジル大使、駐カナダ大使、駐ベリーズ大使、外務次官、駐オーストリア大使等を歴任し、2023 年 4 月から駐日特命全権大使。

インタビューの一問一答は次の通り。

—大使は駐日大使として着任されて約 2 年になりますが、日本についてどのような印象をお持ちですか。これまでの日本滞在で最も印象深い思い出は何ですか。

日本は千年以上の歴史と文化から生まれたユニークな特徴を持つ国だと思います。オフィシャルな場からインフォーマルな場まで、さまざまな場面で人々に対する礼儀や敬意が見られ、礼節、敬意、真心が常に存在していることに感銘を受けました。自然の景色や古今の建築物から生み出される景観も非常に美しいと感じます。

—2024 年 1 月、種の運動党のベルナルド・アレバロ大統領（元外交官で元大統領の子息）の政権がスタートして 1 年余り経ちましたが、同政権の内政・外交上の優先政策を教えてください。

アレバロ政権の優先課題は、国内政策に関しては、民主主義と法治主義の擁護、国民の生活条件の改善、特に最も困窮している人々のための雇用と機会の創出などです。外交政策に関しては、紛争の平和的解決、他国の内政への不干渉、主権と領土保全の擁護など、国際法に謳われた原則が尊重される、法の支配に基づく公正で調和のとれた国際システムの構築に向けて、外交活動を行うことを基本方針としています。



グアテマラ市の景色（駐日グアテマラ大使館提供）

—今年1月、トランプ大統領の第二期政権が発足しましたが、移民問題や経済関係を中心に貴国と米国との関係にどのような変化が生じるとお考えですか。

米国との関係は、グアテマラにとって戦略的に重要です。米国は、グアテマラにとって2番目に大きな貿易相手国であり、同国にはより良い経済機会を求めて移住した相当数のグアテマラ人が住んでいます。

ドナルド・トランプ大統領の第二期政権の発足後、マルコ・ルビオ国務長官が就任後初の外国訪問でグアテマラを訪問するなど、二国間関係は確固たる足取りでスタートしました。これまでに、グアテマラや中米からの非正規滞在者の出身国への秩序ある帰還を可能にするための合意をはじめ、その詳細はさらに実務的協議が進められるものではあります、重要な協力について合意が成立しました。また、貿易関係については、変更はなく、アボカドなど幾つかのグアテマラ農産物の米国市場へのアクセスが見込まれています。

—貴国は台湾との外交関係を維持しつつ、中国とも実利的な関係は保っていると理解していますが、今後ともそのような政策に変更はありませんか。

台湾との外交関係に関しては、近い将来、グアテマラの外交政策に変更はないと言えます。

—日本とグアテマラは長年にわたり友好協力関係を維持していますが、現在の二国間関係をどう評価されますか。今後どのような分野で関係強化が期待されますか。

日本とグアテマラの二国間関係は非常に良好です。今年は大阪・関西万博が開催されますが、この機会に両国関係が一層強化され、相互理解もより深まることを期待しています。

国際関係においても、グアテマラと日本は同じような視点を持ち、国家間の平和的共存のための原則と価値を尊重し擁護しようとする国として、国際的な主要な課題について、今後とも協調して積極的に取り組んでいけると確信しています。

—今年は日本と貴国及び他の中米諸国が外交関係を樹立してから 90 周年となります。この機会に予定されている行事や事業はありますか。

中米 5 カ国は、今年、日本との外交関係樹立 90 周年を迎えたが、2 月に英利アルフィヤ外務大臣政務官と中米諸国の駐日大使等が出席して、「2025 年日・中米交流年」の開幕を記念する式典を開催しました。現在、中米諸国の駐日大使による調整会議を開催しながら、共通の活動を企画し実施に移そうとしています。

—最近、大使が特に关心を持たれ、また力を入れて取り組んでおられることは何でしょうか。

現在高い優先順位と关心をもって取り組んでいるのは、大阪・関西万博にグアテマラが適切に参画できるよう最善の準備を行うことです。そして、万博のナショナルデーに合わせて本国要人のパビリオン視察と東京訪問を実現したいと考えています。

—読者に対してメッセージがあれば、お願いします。

読者の皆様にお伝えしたいのは、マヤ文明の発祥地であるグアテマラは、観光と投資において無限の魅力を提供する国であり、祖先の膨大な文化遺産と活力に満ちた現在の可能性が融合するユニークな場所であるということです。ぜひ、グアテマラを訪れてください、両手を広げてお待ちしています！



チチカステナンゴの伝統的踊りの準備の模様（駐日グアテマラ大使館提供）

(注) 本インタビューのスペイン語全文は、ラテンアメリカ協会ホームページ英語サイトに掲載しています。

（ラテンアメリカ協会副会長 佐藤 悟）